



ニュース

ニュース

森保一新監督率いるサンフレッチェ広島は14日、U-23日本代表候補のGK増田卓也(22=流通経大)、DF千葉和彦(26=新潟)、FW石原直樹(27=大宮)、韓国人のDFファン・ソッコ(22=大邱大)、MFイ・デホン(18=江陵中央)の新加入5選手の記者会見を行った。広島県出身でもある増田は「小さいころからサンフレッチェに入るのが夢だった。『広島之宝』と呼ばれる選手になりたい」と意気込みを語った。尊敬する元日本代表GK下田(現広島コーチ)の背中を追って入学した広島皆実高でGKを始め、守護神として06、07年度の高校サッカー選手権で8強入りに貢献。強豪・流通経大ではU-23日本代表候補にも選ばれた。「なでしこジャパンに負けないように、男も強くなりたい。本大会出場に貢献したい」と話した増田は会見後、グアムで行われたU-23日本代表トレーニングキャンプに合流するため東京へ向かった。またクラブは、創立20周年でもある今年のスローガンを「WE FIGHT TOGETHER 2012 団結」と発表。新体制で「組織的な攻撃サッカー」をさらに進化させ、「一致団結」して勝利を目指してもらいたい。



新加入選手会見  
今年のスローガンは「団結」



意地見せた！  
メイプル3年連続3位  
全日本総合ハンドボール選手権大会



12月21日から25日まで横浜国際プールで第63回全日本総合ハンドボール選手権大会が行われた。この大会は、実業団からクラブチーム、学生の強豪が集まり日本一を決める大会。準決勝の相手はソニーセミコンダクタ九州。日本リーグ勢の対戦となった。試合は互いに譲らず一進一退の攻防が続き、第二延長まで纏れ込むほどの接戦となる。しかし第二延長の後半に5連続得点で一気に試合をガ勢の対戦となった。試合は互いに譲らず一進一退の攻防が続き、第二延長まで纏れ込むほどの接戦となる。しかし第二延長の後半に5連続得点で一気に試合を決められ、結果34-31で惜敗し第3位という結果に終わった。呉監督は「優勝を目指していたが、試合中や練習で主力選手らが怪我をしてしまったのだが、残りの選手たちでカバーをしい、100%の力は出し切った。」とコメントした。全日本の王座にあと一步届かなかったが意地は見せた。睦月の冷たい風に吹かれても彼女たちの熱き闘志がリーグ戦を熱くする最高のスパイスになるだろう。



ず一進一退の攻防が続き、第二延長まで纏れ込むほどの接戦となる。しかし第二延長の後半に5連続得点で一気に試合を決められ、結果34-31で惜敗し第3位という結果に終わった。呉監督は「優勝を目指していたが、試合中や練習で主力選手らが怪我をしてしまったのだが、残りの選手たちでカバーをしい、100%の力は出し切った。」とコメントした。全日本の王座にあと一步届かなかったが意地は見せた。睦月の冷たい風に吹かれても彼女たちの熱き闘志がリーグ戦を熱くする最高のスパイスになるだろう。

- \*加盟団体\*
- ・NTT西日本広島
  - ・サンフレッチェ広島 ソフトテニスクラブ
  - ・JTサンダース
  - ・中国電力陸上競技部
  - ・湧永製菓
  - ・コカ・コーラウエスト
  - ・広島メイプルレッズ レッドスパークスアイスホッケー部
  - ・広島ガスバドミントン部
  - ・広島東洋カープ

今年も多くの活躍を！  
トップスからも1団体4選手が受賞



中国スポーツ賞

2011年に国内外で活躍した中国地方にゆかりのあるチーム、選手に贈られる第55回中国スポーツ賞の表彰式が12日

中国新聞社提供

に行われた。4団体、3個人にスポーツ賞が、7個人に特別賞が贈られた。選手や指導者たち39人が出席。トップス広島からも全日本社会人選手権と日本リーグで優勝したコカ・コーラウエストレッドスパークスがスポーツ賞を受賞。サンフレッチェ広島から、アジアカップ日本代表としてアジアカップ優勝に貢献した西川周作選手、森脇良太選手、NTT西日本広島ソフトテニスクラブから世界選手権女子個人ダブルスで初優勝した大庭彩加選手、佐々木舞選手が特別賞を受賞。サンフレッチェ広島の西川周作選手は「代表ではレギュラーを目指し、Jリーグでも個人タイトルを取りチームに貢献する」NTT西日本広島ソフトテニスクラブの佐々木舞選手、大庭彩加選手は「今年はアジア選手権の団体と個人、国内も勝つ」コカ・コーラレッドスパークスの吉川由華選手は「受賞を励みに今季もタイトルを取る」とそれぞれコメントした。今年は去年以上に様々な大会でよい成績を収めてくれることを期待したい。

団体戦男女優勝！

総理大臣杯全日本社会人対学生インドア大会



第45回総理大臣杯全日本社会人対学生インドアソフトテニス大会が名古屋市長総合体育館で行われ、社会人チームが接戦の末、男女そろっての優勝を果たした。男子は、村上・高川ペアが桂・泉山ペア(早稲田大)に4-3で、堀・長江ペアが荒武・後藤ペア(愛知学院大)に4-2でそれぞれ勝利し社会人にとって久々となる優勝に大きく貢献した。また、女子においては、大庭が上原(ナガセケンコー)と組み水松・東海ペア(日本体育大)に4-2で、佐々木が森原(東芝姫路)と組み柿崎・神谷ペア(日本体育大・東京女子体育大)に4-1でそれぞれ勝利し、チームのストレート勝ちに貢献した。また、個人戦においても、佐々木と大庭は上記同ペアでそれぞれ優勝、準優勝を果たすなど素晴らしい活躍を見せた。しかし、男子はそれ決勝トーナメント初戦で惜しくも敗退した。また、1月15日に第52回東京インドア全日本ソフトテニス大会が東京体育館で行われ、佐々木・大庭ペアが準優勝に輝いた。同ペアは女子予選Bブロックを1位で通過し、決勝トーナメントも順調に勝ち上がった。惜しくも決勝戦に敗れたものの、素晴らしい活躍を見せた。しかし、男子は堀・長江ペア、村上・高川ペア、それぞれ予選リーグ敗退となってしまった。しかし、今シーズンの戦いはまだ終わっていない。男子の巻き返しに大きく期待したい！

# JT 今季初勝利 2連勝とはならず

JT サンダーズは1月14日(土)の広島でのホームゲームで豊田合成トレフェルサとの1戦に挑んだ。第1セットは自らのスパイクミスなどで序盤リードを許し、22-25で第1セットを失う。第2セットは序盤からお互いにサイドアウトを奪い合う接戦になった。20-20の場面で自らのミスで3連続失点し、20-23とされ、万事休すかと思われたが途中出場の甲斐がレフトスパイクで反撃開始。3連続得点を上げ、このセットを25-23で奪った。第3セットはJTが主導権を握り、このセットを25-15で奪取。初勝利に王手をかけた運命の第4セット。このセットもJTが得点を重ね、相手を圧倒しこのセットを25-17で奪いゲームセット。セットカウント3-1でJTは待望の今リーグ初勝利を手にした。15日(日)はホーム2連勝をかけ、東レアローズと対戦。第1、第2セットはリーグ屈指のサイドアウト率を誇る東レの前に苦しみ、2連続でセットを落とす。後がなくなった第3セットはデュースにもつれる接戦となり、29-27でJTがセットを奪い返したが、反撃もここまで。第4セットは東レに支配され、万事休す。セットカウント1-3で敗れ、ホーム2連勝とはならなかった。



## チームMVPに朴選手 CCW レッドスパークス

2011年12月20日(火)、広島市内においてCCW レッドスパークスホッケー部の納会が行なわれた。選手会会長であるGK吉川由華選手の司会で始まった会において、チーム全員の投票による個人賞の発表が行なわれ、FB朴善美選手が見事MVPに選出された。韓国体育大学時代から常に中軸としてプレー。その後に入団した韓国の実業団屈指の強豪、韓国テレコム社においても春季大会6連覇、06年大会MVPという、大きな実績と実力を引きさげて入団した朴は、日本リーグ開幕から素晴らしい活躍をみせた。「しっかり守って攻撃参加もし、試合の流れをつくりたい。全勝し、優勝する」とシーズン開幕前に朴は語っており、全勝とはならなかったが、無敗での優勝に大きく貢献し、見事に有限実行してみせた。来シーズンもCCW レッドスパークスFB朴善美の活躍に注目したい。功労賞にはGKの吉川由華選手、得点王にはFWの藤夏弥選手、新人賞にはFW新井麻月選手が輝いた。



## リーグ戦最終戦を飾れず入れ替え戦へ バドミントン日本リーグ

バドミントン日本リーグは12/25(日)に最終戦の東京大会が行われた。1部残留の懸かる広島ガスは北都銀行と対戦。第一ダブルスは小池・桜井選手ペアが一方的な試合で勝利。しかし、シングルの武田選手、第2ダブルスの橋本・前田選手が敗れてしまい、試合にも敗退。この結果日本リーグ8位が確定した。広島ガスは入れ替え戦で一部残留を懸けて戦うことになった。入れ替え戦は2/26(日)に東京都墨田区総合体育館で行われる。



**\* ロゴマークの意味 \*** 広島県の木、広島県の花として県民になじみの深いモミジをモチーフにしました。「新緑のモミジ」はジュニアスポーツの育成を、「紅葉のモミジ」は選手が成長していく姿を表現しています。ジュニア選手がトップを目標とすることを期待し、広島県のスポーツのジャンプアップを図ることを意味しています。

# ワクナガ 今季初タイトル獲得ならず



12月21日から25日にかけて、横浜国際プールスポーツフロアで第63回全日本総合ハンドボール選手権大会が行われた。ワクナガレオリックはシードで準々決勝からの登場、相手は日本体育大学。試合は後半残り10秒で日本体育大学に逆転されてしまい、その後、湧永の最後のシュートもキーパーのファインセーブに阻まれ、試合終了。結果、29対28でおしくも敗戦。今季タイトルを獲得することができなかった。今シーズン残っているリーグ優勝を目指して、全力で頑張ってもらいたい。

沖繩・日南キャンプに先駆け、合同自主トレが16日大野練習場で開始された。初日のこの日は4人が集まった。新人入団選手の挨拶のあとウォーミングアップやキャッチボール、ノック、グループレッスンが行われた。ドラフト1位の野村投手ら新人選手は地道なトレーニングを繰り返して、精神的にこなしていた。新人野手の打撃練習には報道陣だけでなく堂林にも注目し同世代のライバルを見つめていた。昨シーズン一年間通して投げることができず今シーズン雪辱に燃える左腕、篠田投手は「合同自主トレが始まり、皆が集まってくる気持ちも引き締まってくる。キャンプに向けて身体を作っていく。今年の目標は1年間ケガをしないこと。1年間ケガせず過ごせれば自然と結果がついてくると思う。どんだん新しい選手も出てくるし、負けないように頑張りたい。」と熱い眼差しで語った。練習中、選手たちは声を出しお互いにもり立てながら明るい雰囲気の中、選手たちは汗を流し感覚を確かめていた。合同自主トレは30日で行われ、2月1日にキャンプインを迎える。今年こそは、リーグ優勝目指して頑張ってもらいたい。

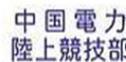
## 広島東洋カープ 合同自主トレが始動



練習中、選手たちは声を出しお互いにもり立てながら明るい雰囲気の中、選手たちは汗を流し感覚を確かめていた。合同自主トレは30日で行われ、2月1日にキャンプインを迎える。今年こそは、リーグ優勝目指して頑張ってもらいたい。

## 中国電力9位、入賞逃す ～全日本実業団対抗駅伝競走大会～

1月1日に第56回全日本実業団対抗駅伝競走大会が行われ、中国電力は4時間54分56秒の9位でゴール。1区で19位スタートと大きく出遅れるものの、その後は3区石川、4区岡本がそれぞれ6人抜きの力走を見せるなど一時は5位争いに絡むも6区池淵が区間32位とプレーキ。結局9位でゴールした。佐藤敦之将は外国人が走る2区で日本人トップながら区間19位とチームの順位を上げる事が出来なかった。「新人に任せないといけない状況自体が力のない証拠」と厳しい現実を受け止めた。過去2度の優勝を誇る中国電力。2001年から続く8位入賞も11年で途切れてしまった。坂口泰監督は「来年はもっと厳しい。ゼロからもう一度強くしていくしかない」と雪辱を誓った。



区間	距離	選手名	記録	区間順位	通過順位
1区	12.3km	森本 卓司	36分15秒	19位	19位
2区	8.3km	佐藤 敦之	23分36秒	19位	18位
3区	13.6km	石川 卓哉	39分15秒	8位	12位
4区	22.0km	岡本 直己	1時間3分40秒	3位	6位
5区	15.8km	田中 宏樹	46分59秒	9位	8位
6区	12.5km	池淵 智紀	38分54秒	32位	9位
7区	15.5km	新井 広憲	46分17秒	8位	9位